

＜ 今日の説教のポイント ルカによる福音書 22 章 39～46 節 ＞

1 親近感を持つ、オリーブ山でのイエス様の姿。そこに意味あり。

捕らえられてから十字架上で息を引き取られるまでのイエス様は、父なる神様への信頼の姿を見事に示し通されたと言っていいでしょう。それには敬服しますが、同時に近寄りがたさも覚えます。しかし、このオリーブ山で、十字架にかけられることを恐れられ、その恐れを取り除くために私たちと同じように一心に神様に祈られた姿にはむしろ親近感を覚えます。つまり、イエス様に、ただ父なる神様への立派な信頼の姿だけでなく、①おびえられていた時があり、②祈りによってその恐れを乗り越えられ、③父なる神様を信頼して歩み通されるようになった、このことを考えさせてくれるオリーブ山での出来事だったと言えるでしょう。ですから、「あなたがたも『父よ、御心なら、この杯を私から取りのけて下さい。しかし、私の願いではなく、御心のままに行ってください』(42)と祈りなさい。そうすれば神様を信じて歩む思いが強められるから」と教えられているのです。

2 「誘惑」(40, 46)は、「試練」(28)と訳された語と原語は同じ。

イエス様は弟子たちに 2 回も、「誘惑に陥らないように祈りなさい」(40, 46)と繰り返されます。「誰が誘惑するのか」と思ったりしますが、実はこの元の語(ペイラスモス)は 28 節では「試練」と訳され、人生において乗り越えて行くべき色々な試み(trials)を意味したり、またヤコブの手紙 1 章 12～15 節では「耐え忍ぶ」ことを教えてくれる「試練」とされ、悪い意味での「誘惑」は自分の中から生じるものと考えられています。ですから、聖書からの結論としては、この語から悪いものを考えるより、「耐え忍ぶ」ことを身につけさせてくれる有益なものを考える見方を教えられるのです。

3 イエス様亡き後、悲しみの中に置かれた弟子たちへの助言？

悲しみに眠り込んでしまった弟子たちに「なぜ眠っているのか。誘惑に陥らぬよう、起きて祈っていなさい」(46)とイエス様が言われたのは、イエス様が死なれた後悲しむ弟子たちにとって励ましの言葉となったのではないのでしょうか。ですから、私たちも、悲しみの中に置かれた時には、「悲しんで眠り込まず、起きて、しっかり私(神様)を見つめなさい」と励まして下さっているのだと思いたいと思います。